

出 藍

第9号 (月刊)
平成27年12月14日発行
兵庫県立三木高等学校
第70回生第1学年

① 期末考査を終えて～2015年を振り返る～

期末考査お疲れ様でした。力を出し切れたでしょうか？そして、気がつけば1年生として定期考査を受けるのは、次の学年末考査が最後になりました。より一層、定期考査を一つのきっかけとして学習に取り組み、進研模試で通用する真の実力をつけてほしいと思います。

今年も残すところあと数十日になってしまいました。皆さんは2015年中学生から高校生となり、変化の多い1年であったと思います。多くの困難や課題に立ち向かう中で、自分と向き合い人間的に成長することができたでしょう。この経験はテストのように数値化できるものではありませんが、間違いなくこれから社会で活躍していく上において皆さんの大きな糧になるはずです。

「本当に大切なことは目に見えないんですよ。」とどこかの胡散臭い大学教授が言っていたのを思い出しました(笑)。

② 冬休みの過ごし方について

高校・大学時代、「長期休暇ってコワイ」と思っていました。それは、長期休暇は自由な時間が与えられ、自律性を求められるからです。4月のオリ合宿に話を聞き、覚えていると思いますが、著者自身も8月31日人間でした(笑)。ともすればいたずらに過ぎ行く長期休暇ですが、**日々の学習記録**をつけて過ごしてください。つまり、**1日を振り返る時間を必ず確保する**ということです。1日の反省をし、**同じ過ちを繰り返さない努力**をする。70回生ならできると信じています。

同時に心に留めておいてほしいのは、3年生はセンター試験や私立一般試験に向けて必死に勉強しているということです。まだ2年後なので焦るのは早すぎますが、少なくとも他人事ではないという認識を持ち、冬休みを過ごすようにしてほしいと思います。

あと個人的な意見ですが、家事の手伝いをしたり、一緒に年末の大掃除をしたりと普段保護者に任せていることをやってみることをお勧めします(少なくとも自分の部屋の掃除は自分でやりますよね?)。普段の学校生活(勉強、部活動がある日)は家に帰っても自分のやるべき勉強を優先し、思いっきり甘えればよいと思うのです。保護者も勉強する時間を優先することを望んでいるでしょう。ただ、それが当たり前と思わないでください。本来自分がやるべきことを保護者に肩代わりしてもらっているだけなのです。というわけで、少し時間があるときは保護者のお手伝いして感謝の気持ちを行動で示してみるのはどうでしょう？著者のような親不孝ものにならないように...

③ 学年団より

今月も3人の先生方のメッセージをお届けします。この世に無駄な経験などないと感じさせてくれるようなメッセージばかりですので、ぜひ目を通してください。

「失敗から伝えたいこと」

二組担任 木村綾

「人間の眼は失敗して初めて開く」といった哲学者がいますが、私たちは、数々の失敗を繰り返しながら日々生活しています。ただ最近私は、「何をもって成功といい、何をもって失敗というのかは、人生が終わるころでないと分からないのではないかと」も思っています。しかし、どのような状況下においても一つだけ確実に言えることがあります。そのことをこの機会に70回生の皆さんに伝えたいと思います。

それは、「自分に真剣に向き合った結果としての失敗には、悔いは残らない」ということです。私には中学3年時に、自分と真剣に向き合わず安易に高校受験をしてしまった過去があります。その為、大学受験はかなりの回り道をしなければならなかった、という大きな悔いが残りました。今となっては、受験科目ではない学問も役立つ時は多々あったし、大学卒業後は現在の仕事にも就けたし、高校時代の友人は医療現場やエンジニアとして活躍する人が多く、刺激を受けることができるので良かった、という風に考えることができるようになりました。しかし、やはり真剣に向き合わなかった15歳の自分には、一生悔いを残して今後も生きていくのだと思っています。

70回生の皆さんに、保護者の方々は勿論、我々教師は毎日様々な言葉を投げかけています。それは皆さんに「失敗してほしくない」からではありません。「自分と真剣に向き合い、悔いを残さないでほしい」からです。この大人たちの思いが良い形で伝わる70回生でありますように、と切に願っています。

四組担任 櫻木由佳

失敗と言えるかどうかはわかりませんが、自分の高校時代のことを考えると、色々なことを中途半端にしかやっていなかったなあ、と思います。自分の希望する高校に入学して、「高校ではこれをやる」と決めていた部活動にも入りました。部活動はたいした目標もなく、楽しくやれたらいいかな、ぐらいの気持ちで過ごしていました。同じ部活内でも、近畿大会、全国大会を目指して頑張っていたメンバーもいた中、今となってよく考えてみたら、明確な目標をもって取り組んでいれば、チームとして上位の大会に出場できていたかもしれないし、自分をもっと高めることができていたかもしれないと思います。一方進学で目指すのは国公立大学だったので、それなりに勉強をして、定期考査や模試ではそれなりの順位を取っていたりもしました。でも結局3年間を通して考えると、最終的に自分の甘い考えに負けてしまっている。一番頑張らなければならぬ時期に頑張れなかった、というのが現実です。最後までやり通す、という気持ちが弱いのは、未だに自分の欠点でもあります。

もう一つに、あくまで推測ですが、将来を早く決めすぎたのかもしれないことがあります。自分が「これ」になる、と決めたことにより、自分の将来についての考えを深めることはできたのですが、自分が持っていた可能性とか、自分の将来について視野を広げる機会を失ったかもしれません。最後に、高校生という3年間は2度とないものなので、全力を出し切ってほしいと思います。また、なりたいた職業が決まっていけない人は、チャンスがいっぱい転がっています。今の自分を見つめて、将来について考えられるこの貴重な時期を大切にしてください。なりたいたものが決まっている人は、決まっていることに安堵するのではなく、興味のあるなしにかかわらず色々なことに目を向けて、経験値を上げてほしいと思います。

失敗する原因は運が悪いのではなく、事前の研究不足と物事を甘く考えていたせいの方が多し。私もそうであった。これは人生の失敗ではなく趣味の失敗であった。しかし趣味とは言っても下手をするとも命にかかわることでもあった。

私の趣味は山登りであるが、それは教師になってから始めた。最初に勤めた学校に山登りが好きな先生がいて、四国の山に行こうと誘われ2人で行くことになった。その先生の山行のスタイルはテントと自炊であった。私は当時山のことは全くわからなかった。ひとまずリュックや登山靴を買って準備したが、キャンプに行つて飯ごうすいさんをするくらい軽い気持ちでいた。予定としてはまず剣山に登り、次に山嶺（みうね）という山まで縦走する計画だった。

剣山のふもとで1泊してから登った。剣山を登つたまではよかった。問題はここからはるか向こうに見える山まで縦走することだった。剣山には登山者はいたが頂上から先へ行く人はなく、今回は一人の登山者にも会わなかった。またその年の夏は雨が降らず日照りが続いて暑い夏だった。

縦走路はあまり整備されてなく、藪をかき分けて進んだ。汗だくなつて水をよく飲んだ。それと登山靴は初めて使つたのでかかとが痛かった。進むにつれてだんだん自分の考えが甘かつたことがわかつてきた。致命的だったのが、水筒は1リットルしか持つてきてなかつたのでしばらくすると水筒の水はなくなつてしまつた。予定では山の地図に書いてあつた水場というところでテント泊の計画だった。そこまで行けば水があり何とかなると思つてそれを目標に頑張つた。陽に焼けて腕もひりひりしたし、靴ずれも痛かつた。何よりも水がなかつたので、のどが渴ききつて口の中がからからで力も出なかつた。一緒に行つた先生は私より体力はあつたが、同じく水がなくなつていた。今から思えばその先生の山のレベルは高くなかつたと思う。

くたくたになつてやつつと目的地のテント泊の場所に着いた。夕方前だった。水場を探した。しかし水場はどこにもなかつた。ただ水場の跡らしきものはあつた。呆然とした。考えるとその年は雨が降らず水が枯れていたようだった。後から知つた事だが山ではそういうことはよくあり、季節によつて水があつたりなかつたりするのである。事前の研究不足としか言いようがなかつた。

食糧はあるが水がないので食事を作れないし、パンやお菓子はあつた。暗くなつてきてすることは何もなかつた。テントを張つて寝るしかなかつた。寝てとにか明日すぐ山を下りるのみだった。

7時頃寝た。しかし口があまりにもからからで上あごと舌が引つ付いて苦しくて寝るどころではなかつた。人間は物を食べなくても何日間かは生きていけるが、水がなかつたらすぐ死んでしまうと聞いていたので朝になつて死んでしまわないか心配であつた。早く朝が来ないかとそればかり思つた。今までも早く朝が来ないかと思つた夜はあつたがこれまでの最低の夜だった。何回も時計を見た。しばらく目をつぶつていたら寝た気がしたので何時かなと思つて時計を見るとまだ10時であつた。なにしろ7時に寝たのでなかなか朝は来なかつた。

やつと朝になつた。明るくなつてきたときは本当にうれしかった。テントから出たら笹の葉に露が降りていた。それをべろべろなめた。何の足しにもならなかつた。テントを撤収して出発した。しかしすぐ下山できるわけではなく、まず山を登つてから向こうに下りなければならなかつた。登りは何度も止まつたが何とか登り切つた。しかし景色はどうでもよかつた。すぐ下りにかかつた。しばらく下りると沢の音が聞こえてきた。その時はうれしかった。水筒に水を入れごくごく飲んだ。生き返つた気がした。1リットルくらい飲んだ。

下山するとそこは秘境というような山と山に囲まれた村であつた。道に出ると池田という町に行くバス停があつた。バスは一日に数本しかなかつたが、ラッキーなことに少し待つだけで乗れる時間であつた。そしてバスに乗つたらほつとした。やれやれ終つたと思つた。が終つていながつた。バスは深い渓谷沿いの道を走つた。私は渓谷に見とれていた。しばらくするとお腹が痛くなつてきた。下痢であつた。トイレに行きたくなつた。水の飲みすぎのせいだった。後からわかつたことだが、のどがあまりに渴いているときは水を少しづつ飲まないで体に吸収しないらしい。そんなことは知らなかつた。しかしここで一日に数本しかないバスを降りるわけにはいかなかつた。早く池田に着いてくれとそればかり思つた。今ままで最低のバス旅であつた。しかし池田は遠くになかなか着かなかつた。バスは渓谷沿いの道を普通に走つていた。

しばらく行くと「かずら橋」というバス停に着いた。すると「ここで10分お待ちください」という放送があつた。観光地だったようだ。ラッキーだった。すぐ降りてトイレに行つた。悪い状況の中でも運がよかつたと思う。これでやつと苦難の山旅は終わることができた。

このように最初の山旅はひどい目に遭つた。失敗の連続であつた。でも大事に至らなくてよかつた。これも自分が甘く事前の準備ができてなかつたことと、やはり最初は初心者向けの山で小さな失敗を繰り返して練習すべきであつた。それ以後私は山登りをやめるのではなく、逆に次はちゃんとした山登りをしたいという意欲が出てきた。本氣になつてやらないとだめだと体得した。そのおかげで今はもうちょっとましな山登りをするようになった。誰でも失敗はしたくないが、失敗してこそ本氣になることも多い。大きな失敗をする前に、小さな失敗をすることで防ぐことができる。お恥ずかしい話であつたが参考にしてもらえれば幸いです。

④今後の予定

12月14日(月)	防災訓練
18日(金)	芸術鑑賞(落語)
21日(月)	大掃除・ワックス掛け
24日(木)	終業式
2016年	
1月8日(金)	始業式・服装頭髪検査
1月23日(土)	1月進研模試
1月24日(日)	第3回英検1次

服装頭髪検査

「時間がなかつた」は言い訳です。忘れずに。

1月進研模試

3回目の進研模試があります。冬の取り組みが勝敗を分ける!